



製品安全データシート

会社名: コダック株式会社
担当部門: コンシューマー & プロフェッショナルイメージング事業部
所在地: 東京都中央区新川2 - 27 - 1 (〒104-0033)
電話番号: 03(5540)9000 FAX: 03(5540)2253

緊急連絡先: (財)日本中毒情報センター【中毒 110 番】
(事故に伴い急性中毒の恐れのある場合に限る)
9時から17時まで: 0990(52)9899 (ダイヤル Q2 有料)
又はダイヤル Q2 を利用できない医療施設の場合は 0298(51)9999
これ以外の時間帯: 0990(50)2499 (ダイヤル Q2 有料)
又はダイヤル Q2 を利用できない医療施設の場合は 06(6878)1232

MSDS No.200001263/F/USA/JP

承認日: 2000年10月12日

作成日: 2003年12月1日

1 製品名

コダック E-6 リタッチング ダイ バッファー

CAT No.121 3206

16 液量オンス

2 危険・有害性の分類

通常取扱いでは、危険性は少ない。

3 物質の特定

混合物

成分	重量%	CAS No.	PRTR 政令番号
水	45-50	007732-18-5	
トリエタノールアミン	30-35	000102-71-6	
プロピオン酸	20-25	000079-09-4	

4 応急措置

- 吸入した場合 : 症状が出たら、空気の新鮮な場所へ移動する。症状が続くならば、医療手当てを受ける。
- 眼に入った場合 : 眼に入った物質を直ちに水で洗い流す。症状が続くならば、医療手当てを受ける。
- 皮膚に付着した場合 : 水とセッケンで洗い、症状が出たら、医療手当てを受ける。
- 誤飲した場合 : コップ 1-2 杯の水を飲み、胃内で薄めた後、医療手当てを受ける。

5 火災時の措置

- 消火手段 : 水スプレー、二酸化炭素 (CO₂)、粉末消火剤
- 火災時の特別対応物質 : 保護衣と呼吸用保護具を着用する。火災や過度の熱により、危険な分解物質を生じることがある。
- 有害燃焼物質 : 二酸化炭素、一酸化炭素
- 異常火災 / 爆発の危険性 : 火災や高温により分解することがある。

6 漏出時の措置

多量の水で洗い流すか、不活性物質に吸収させ化学物質廃棄用の容器に回収する。漏洩箇所を十分に拭きとる。

7 取扱い及び保管上の注意

取扱い : 適度な換気をする。取扱い後は、十分に手などを洗う。
 火災や爆発の防止 : 酸化物質に接触させない。熱から離して保管する。
 保管 : 密栓して保管する。

8 暴露防止措置

許容濃度 : ACGIH(TLV)
 プロピオン酸: 10 ppm TWA
 トリエタノールアミン: 5mg/m³ TWA
 OSHA(USA)(PEL - 1971 表 Z-1 値): 確立されていない。
 換気 : 換気の良い場所で取扱う(10 air changes / 時間)。換気率は使用条件に適合しなければならない。
 取扱い : 眼への付着を防止し、皮膚への付着、吸入を最小限にする。
 呼吸器系の保護 : 必要なし
 眼の保護 : 眼への付着を最小限にする。側板付き眼鏡またはゴーグル型保護眼鏡を着用する。
 皮膚の保護 : 皮膚への付着を最小限にする。長時間、あるいは繰り返し付着するような操作では、不浸透性の手袋を着用する。
 浄化する設備 : 洗眼、身体洗浄の設備(シャワー)を推奨する。

9 物理・化学特性

外観 : 液体
 色 : 無色
 臭気 : 無臭
 沸点 : > 100
 蒸気圧 : 24mbar (18mmHg) / 20
 蒸気密度(空気 = 1) : 0.6
 揮発留分(重量) : 70%
 比重(水 = 1) : 1.11
 pH : 5.0
 水溶性 : 完全
 引火点 : なし

10 危険性情報(安定性・反応性)

安定性 : 安定。しかし、325 以上では物質が分解する可能性がある。225 以上の温度を避ける。
 不適合物質 : 強酸化剤
 危険重合物質 : 知見なし

11 有害性情報 (暴露の影響)

吸入 : 通常取扱いでは、危険性は少ないと予想される。
 眼 : 知見なし。一過性の炎症を起こすことがある。
 皮膚 : 通常取扱いでは、危険性は少ない。
 誤飲 : 危険性は少ないと予想される。

12 環境影響情報

(この項は、輸送中の不慮の事故などにより発生した漏出時の対応について述べるもので、下水道などに排出するための情報ではありません。)

本品の主成分に関するデータに基づいて本品の環境へ及ぼす影響を推測しています。

本製品は中庸に酸性水溶液で、自然環境へ悪影響を及ぼすと考えられますが、実際には試していません。以下の特性は、予測に基づいたものです。

予測される特性: 水質系に流出した場合、BOD は中庸であり、酸素を破壊する可能性がある。
 水中生物への影響は少ない。
 生物分解処理はされやすい。
 活性化スラッジ中の順化していない微生物で生物分解する可能性が高い(残存する可能性は少ない)。
 生物濃縮の可能性は少ない。
 大量の水で希釈すれば、直接間接的に自然環境に放たれても問題はないであろう。

13 廃棄時の注意

大量の水で下水に洗い流す。

14 輸送上の注意

Air Transportation
 Class :
 国連番号(UN Number) :
 Proper shipping name :
 Subsidiary risk :
 Packing group :
 Passenger aircraft :
 Cargo aircraft only :
 Further information :

15 適用法令

化学物質管理促進法 (PRTR 法) :
 毒物劇物取締法 :
 労働安全衛生法 :
 消防法危険物分類 :

16 その他

危険・有害性の評価は必ずしも十分ではないので、上記の内容は補足の情報と見なし、取扱いには注意してください。